

授業概要

今日の社会は、メディア社会と呼んでも過言ではないほど、インターネットやスマートフォンといったメディアなしには成立しがたく、それらと複雑かつ深く結びついている。その結果、今日の社会の仕組みは容易には見通しにくい不透明な状況にある。今日のメディア文化について考える際、こうした「メディアの不透明性」を強く意識したうえで、メディアの成り立ちや仕組みを理解する必要がある。

本講義では、メディア文化研究の主要な研究業績を参照しながら、受講生の生活環境に関連する身近な事例を取り上げて講義する。この講義を通じて、現在のメディア文化が抱える諸問題について、そしてメディア文化の未来像について、分析的に考察するための多様な視点を獲得してほしい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション——メディア文化の現在と諸問題
第 2 回	ネットワークの来歴——マスメディアからインターネットへ
第 3 回	モバイル・デバイスの来歴——固定電話から携帯電話、スマートフォンへ
第 4 回	コンテンツ・メディアの来歴——アナログからデジタルへ
第 5 回	ソーシャル・メディア——SNS (X(旧 Twitter)、TikTok、Instagram) の功罪
第 6 回	デジタル・コンテンツ——「水のような音楽」、デジタル化したコンテンツの価値
第 7 回	インターネット広告——ターゲット化される個人、監視社会
第 8 回	ユビキタス/ビッグデータ——レコメンデーション (おすすめ) はどこから来るのか
第 9 回	著作権/著作権隣接権——不透明さ故の無邪気な振る舞い
第 10 回	リアリティ——アニメ「推しの子」と「YOASOBI」をめぐる流行と報道
第 11 回	賑わいの創出——ファンダムと推し活
第 12 回	デジタル・アーカイブ——YouTube はミュージアムなのか
第 13 回	メディア文化とライブ文化——コンサートをめぐる体験の差異
第 14 回	メディア文化の未来像——AR、VR、XR、メタバース、AI 技術
第 15 回	講義全体のまとめ
第 16 回	学期末レポート試験

到達目標

- ・メディア文化の背後にあるテクノロジーや社会との関わりについて理解することができる。
- ・メディア文化について、何となくのイメージや好き/嫌いという表層的な視点ではなく、分析的な視点を用いて、客観的かつ具体的に論じることができる。

履修上の注意

- ・講義では映像や音源を数多く紹介するため、毎回の積極的かつ主体的な参加を期待します。
- ・講義で紹介するトピックスと、受講生自身が興味関心を持つ事例（ニュース、作品、アーティストなど）とを照らし合わせて、自分なりに考察を深める習慣をつけてください。

予習・復習

- ・予習：次回の講義で扱うテーマについてインターネットや参考文献等を利用した自主学習を行う。関連する最新のニュースにも目を向けておくこと。
- ・復習：レジュメや参考文献に目を通し、重要事項をノートに自分の言葉でまとめること。興味関心のある事例について考察する際、すぐに参照することができる自分だけのデータベース構築を目指してほしい。

評価方法

- ・学期末レポート試験（70%）
- ・コメントカードおよび講義への参加態度（30%）

テキスト

- ・テキストは特に指定しない。
- ・毎回の講義でレジュメとコメントカードを配布する。
- ・毎回の講義で参考文献や参考資料を紹介する。